

乳房検査

視触診	医師が目で乳房を観察してくぼみがないか、手で触れてしこりがないか、リンパ節が腫れていないか、乳頭から分泌物がないかなどを観察します。触診で発見できるものは、ある程度の大きさになったしこりです。しこりがすべて乳がんというわけではありませんが、視触診だけに頼っていると、しこりが乳がんであった場合、ある程度の大きさにならないと発見できない可能性があります。超音波検査、乳房 X 線検査との併用をお勧めします。
超音波検査	超音波により乳腺の性状や、腫瘍の有無を調べます。 医師の視触診や自己チェックでは発見できないしこりや、見つかったしこりが良性か悪性かといった診断に用いられています。 異常がある場合は組織生検などの精密検査をお勧めします。
乳房 X 線 (マンモグラフィ)	乳房をプラスチックの板ではさんで平たくし、乳房専用の X 線装置で乳房全体を撮影します。基本的に 1 方向か 2 方向から撮影します。40 歳代は乳腺密度が高い人が多いため 2 方向、50 歳以上は 1 方向からの撮影としているところもあります。 医師の触診や自己チェックでは発見できないしこりや、石灰化のある小さな乳がんの発見に適しています。 異常がある場合は組織生検などの精密検査をお勧めします。